

近世東北の人の移動：二本松藩町村の比較

Migration in Early Modern Northeastern Japan : A Post Town and Surrounding villages in Nihonmatsu

長岡篤（麗澤大学経済社会総合研究センター）、
高橋美由紀（立正大学）、黒須里美（麗澤大学）

Atsushi NAGAOKA (Reitaku Institute of Political Economics and Social Studies),
Miyuki TAKAHASHI (Rissho University), Satomi KUROSU (Reitaku University)
anagao08@reitaku-u.ac.jp

本研究は、現在の福島県に残る「人別改帳」を基に構築された「ザビエルデータ」(Xavier data)を用い、郡山上町、仁井田村、下守屋村、日出山村（以下、4 町村）に関する人の移動を対象に、移入元・移出先の町村を、町村間の移動数、移動理由、地理的傾向（町村間の距離及び標高差）、移入元・移出先の旧高、郡の人口密度を用いて主成分分析及びクラスター分析により分類し、特徴を明らかにすることを目的とする。歴史人口学では、地理的な移動に関するデータは限られており、4 町村は移動の詳細が把握できる貴重なデータである。

分析は、4 町村と移出先・移動元の町村間の移動 1,208 を対象とする。これらを対象に、表に示す項目を用いて主成分分析を実施した。本報告では、4 町村をまとめた分析結果を示す。第 1 成分は移動数の大小、第 2 成分は地域差と解釈した。そして第 1 成分と第 2 成分を用いて Ward 法によるクラスター分析を行い、移入元・移出先の町村を 5 グループに分類し、結果を散布図に示す。Group1 には 609、Group2 には 570 と多くの町村が含まれ、これらの町村は移出入数の大小よりも地域差が大きい。Group3 は 24 あり、移出入数の合計が約 100～400 あるものの地域差が少ない。Group4 は 4 あり、移出入数の合計が 400 以上あるとともに地域差が大きい。Group5 は 1 のみ（武蔵国高田村）であり、移出入数は 2 であるものの地域差がもっとも大きい。このことから、移動の多くは近接した町村との移動であり数は少なく、移出入数が多く地域差も大きい町村との移動は限られていることが明らかとなった。

発表では、各グループに含まれた町村の位置と移出入数の特徴を考察するとともに、4 町村別の分析を行い、宿場町である郡山上町と周辺 3 農村による違いを考察する予定である。
引用文献：長岡篤、高橋美由紀、黒須里美（2018）「近世東北町村における人口移動の空間的広がり」と地域性」、日本人口学会第 70 回大会

表 主成分分析結果

	成分	
	1	2
結婚養子_移入数	.909	.176
その他_移出数	.813	.192
結婚養子_移出数	.801	.156
奉公_移入数	.750	.211
その他_移入数	.666	.374
奉公_移出数	.547	.119
移入元・移出先町村の旧高	.329	-.262
郡の人口密度	-.296	.752
町村間の標高差	-.319	.827
町村間の距離	-.435	.783
固有値	3.92	2.22
寄与率	39.22	22.21
累積寄与率	39.22	61.43

